

# 「聚楽壁」の技法 若手左官ら学ぶ

## 江南で研修会



左官の技術修得に励む職人ら＝江南市天王町で

寺や茶室などの文化財修復に欠かせない「左官（日本壁）」の技術を継承しようとして、全国の職人を集めた研修会が24、25の両日、江南市天王町の中島左官の作業場で開かれた。約20人の左官が集まり、戦国時代か

ら伝わる土壁「聚楽壁」の技法を学んだ。左官などをつくる「全国壁技術保存会」が主催。京都で数々の文化財修復を手がけてきた左官歴70年の安達保信会長（91）などが若手左官に向けて手ほどきをした。

「聚楽壁」は土壁ならではの素朴で自然な風合いが魅力で、格式高い茶室などに用いられる。日本壁の中でも最高峰の技術が求められるといい、ベテランの左官も未経験の場合が多い。研修ではわらや砂などを混ぜた土の作り方、水の配合割合などを学んだ。職人たちは小さく分厚い専用のこてで丁寧に土を塗り重ねていた。指導した安達さんもち聚楽壁の習得には20年ほどかかったといい「上達には経験と慣れが大切なので良い機会になったのでは。皆さんまじめで仕事熱心」と話した。（児島恵美）